

和 太 鼓 へ の 思 い

—体験活動と関連を図った展開—

- (1) 主題名 謙虚に他に学ぶ広い心 [2 - (5)]
- (2) ねらい 自分と異なる考え方・生き方を理解し、謙虚に他に学んで自己を高めようとする態度を養う。
- (3) 資料名 「和太鼓への思い」
- (4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1 文化祭への取組みの様子や気持ちを振り返る。	<ul style="list-style-type: none">○文化祭に対する取組みはどうだったか。<ul style="list-style-type: none">・練習がうまくいかなくて困った・いい発表にしようとかんばった	<p>発表までの練習中の様子や、気持ちなどを発表させる。</p> <p>○ビデオや写真などを用いて想起させる。</p>
展開	2 資料「和太鼓への思い」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none">○僕はなぜ和太鼓の練習に身が入らなくなってしまったのだろうか。<ul style="list-style-type: none">・思うようにうまくたたけないから・自分の思いが受け入れられなくておもしろくなかったからA 中学校の和太鼓の演技を見たあと、僕はどんな気持ちになったのだろうか。・声を出してみんなの気持ちが一つになっていてすばらしい・みんなに反発している僕の態度とずいぶん違うなあ○「バチをぎゅっと握りしめた」僕は、どんな気持ちだろうか。<ul style="list-style-type: none">・僕も練習して良い演奏をするぞ・みんなの意見も聞いて、気持ちを一つにして和太鼓の練習を頑張るぞ	<p>○耕一たちの考えを受け入れられなくて、注意を謙虚な気持ちで聞けない勇次の気持ちを押さえる。</p> <p>○「かっこいい」と感じたのはなぜか、「ショック」を感じたのはなぜかということを手がかりに、考えさせる。</p>
開拓	3 自分の生活を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">○他の人の考え方や行動に学んだ体験があるか。<ul style="list-style-type: none">・清掃活動への取組みを考えさせられた・執行部の人たちの働きに学んだ	<p>○和太鼓の演技を見たことによって今までの自分を振り返り、変わってきた勇次の気持ちを考えさせる。</p> <p>○勇次の気持ちをワークシートに記入させる。</p> <p>○「心のノート」P.57 に記入する。</p> <p>○これまでの自分を振り返って、他の人の影響による自分の変化を発表させる。</p>
終末	4 教師の体験を話す。	<ul style="list-style-type: none">・みんな同じような経験があるのだなあ・人の意見を謙虚な気持ちで聞いて成長しよう	他に学んだ教師の体験を話す。

「和太鼓への思い

今年も文化祭が近づいてきた。僕たちのクラスの出し物は、和太鼓の演奏に決まった。

「和太鼓つてかっこいいよなあ。はっぴを着て、たすきをきりりと締めて！」

「みんながあつと驚くような、すごいものにしようぜ。」

と、みんなやる気満々だった。僕も「大きな太鼓を思いつきりたいたら、気持ちいいだろうなあ。早く練習したいなあ。」と、楽しみにしていた。

早速、次の日から練習が始まった。放課になると、僕は同じクラスの耕一と、音楽室に走つて行つた。みんなもすぐに集まつてきて練習が始まつた。最初は、姿勢を習つた。

「足を開いて、腰を落として、上半身を揺らさないよう左右に動かしなさい。」

と先生は言つて、見本を見せてくださつた。僕たちは先生のまねをしたが、これが意外にしんどくて、何度もやつていると腰も足も痛くなつてきた。次に、バチの持ち方と腕の下ろし方を習つた。なかなか太鼓をたたくところまでいかない。僕は早くたたきてたらなかつた。

しばらく基本練習をした後、やつとたたくことになつた。太鼓の前に立つて腕を振り下ろすと、「どーん、どーん」と響きのある音がして、とても気持ちがよかつた。「どーん、どーん、どーん。」僕は、楽しそうで楽しそうで夢中になつてたたいた。

こうして、最初に基本姿勢を練習して、そのあとみんなと合わせてリズム打ちをする練習が、毎日続いた。

しばらくたつたある日、

「さあ、今日から曲打ちを始めるよ。」

と先生があつしやつた。毎日続く基本練習に飽きてきていた僕たちは、ついに曲の演奏ができるのだと喜び勇んだ。

「どんどこどーん、どーじどーん…………。」

ところが、一生懸命にたたいているのだが、どうもみんなの音が合わない。今までやつてきたリズムを組み合わせた曲なのに、出始めの音がずれたり、手を擧げるところがそろわなかつたり……。何度もやつてもうまいくいかない。

「うまくいかないなあ。リズム打ちの時はちゃんとできていたのに……」「音がずれるよなあ。どうしたらいいんだろう。」

そのとき、耕一が言つた。

「そうだ！声を出して、リズムを歌いながら太鼓をたたいてみようよ。みんなの声を聞きながらたたいたら、きっと音がそろうよ。」

「そんなことでうまくいくもんか。声なんか出していくたら、たたくことに集中できないじゃないか。何かもつといい方法があると思うよ。」

と僕は反対をした。でも、僕にだつて良いアイデアがあるわけではなかつた。だから、「じゃあ、どんな方法があるというんだ？」

と言われると、返す言葉がなかつた。

「うまくいかどうか、とにかくやってみようよ。」

とみんなも耕一の意見に賛成をし、歌いながらの練習をすることになつた。僕は納得できないまま練習に参加した。

「どんどこどーん、どーじどーん…………。」

みんなでリズムを歌いながら太鼓を打つてみたが、僕の予想通り、そんなにうまくいくものではなかつた。歌うことに一生懸命だと、腕が曲がつたり膝が伸びたりして姿勢が崩れ

てしまふし、たたくことに集中していると、声が出なくなつてしまふ。そして、音がずれる。僕は、「やっぱり歌うなんてダメだよ。声なんか出すよりも、太鼓をたたくことに集中した方がいいよ。」

「言つた。でも耕一は

「そんなことないよ。声を合わせて心を合わせて、もつと練習したら、絶対うまくいくよ」と譲らなかつた。あれほどじはりきつて始めた太鼓だったけど、僕はおもじろくなくなつて、練習に身が入らなくなつた。そのうえ、耕一たちに

「勇次、何やつているんだ。みんなのように、ちゃんと声を出せよ。」

「そうだよ。勇次は大きな声を出していないじゃないか。気合いが足りないんだよ。みんなと合わそうという気があるのか。」

などと言われて、なんだか無性に腹が立つてきた。

それから数日後、僕は、A中学校の文化祭を見に行つた。同じ塾に通つている隆のクラスが、僕たちと同じように太鼓の演奏をするというので、見に来ないかと誘われていたのだ。

幕が上がつたとき、僕ははつとした。何かぴーんと張りつめた空氣を感じたのだ。一瞬の静寂が流れたのち、大きなかけ声とともに演奏が始まつた。真剣なまなざし、まっすぐ伸びた腕、息のあつた勇ましい動き、そして、気合いの入つたかけ声……。みんなの出す「セイヤー、セイヤー」という張りのある声が体育館の中に響きわたつて、すごい迫力だつた。みんなの声と動きがそろつていてすばらしかつた。僕は引き込まれて見入つてしまつた。演奏している隆の顔は、塾でにこにこと笑つているいつもの中とはまったく違つて、とてもたくましく見えた。そして、演奏をし終わつた彼らは、汗びっしょりになりながらも、すがすがしい顔をしていた。すごくかっこいいと思つた。と同時に、僕は何かシヨックのようなものを感じていた。会場にはまだ大きな拍手が続いていた。

今日もまた放課後がやつてきた。いつものように音楽室に向かつていた僕は、なんだか今までと違う自分を感じていた。今日も先生の激しい声がどぶ。

「もつとひざを開いて！腰を落として！」

いつもと同じ基本姿勢が続く。

「はい！」

耕一も容赦しない。

「勇次、もつと大きな声を出せよ。」「よし分かつた。」

「なんだか今日はやけに素直だな。」

耕一が僕を冷やかしたが、不思議と気にならなかつた。

「さあ、仕上げの曲打ちをするよ！」「はい！」

僕は、腰を低く構えると、バチをぎゅっと握りしめた。

活用に生かすための実践報告

「和太鼓への思い」

1 主題の設定

中学生の時期は自我が芽生え、ものの見方や考え方方に違いが表われてくるとともに、個性がはっきりしてくる。そのために、自分の考えや立場に固執する傾向が強くなり、他者の意見を素直に受け入れられず、友人間に意見の対立や摩擦が生じることも少なくない。このような時期に、それぞれの立場や考え方を尊重し他に学ぶ広い心が、人間としての成長に役立つことを理解させることが大切だと考える。

この資料は、文化祭や体育大会などのような、みんなで力を合わせて行う行事の前に実施すれば効果的である。どのクラスにもいると思われる、他人の言うことを素直に聞けないで自己主張をする生徒にポイントをおいて指導するとよいと考える。

2 指導過程の工夫

導入では、文化祭などの体験活動のビデオや写真を使って、取組みの様子や当日の気持ちを想起させるとよい。

展開では、自分の思いと違う耕一たちの意見を聞き入れず、やる気をなくしていた勇次が、A中学校のすばらしい演技をみたことによって、みんなの意見を聞きながら気持ちを一つにすることの大切さに気付いたことを理解させたい。それぞれの気持ちを把握するために役割演技を取り入れるのもよい。

そして、「心のノート」P.57 に自分自身の経験を記入して、今までの自分を見つめ直し、周囲の人のものの見方や考え方につれて学ぶことによって成長することができることに気付かせたい。

3 発問の工夫

勇次は、A中学校の演技をみたことで、自分の考えが正しいと信じて他の人の意見を受け容れていかなかったことに気付いた。そして、すばらしい発表にするために、みんなの意見を聞いて謙虚に学ぼうとするようになった。その気持ちの変化が理解できるように発問を組み立てた。

4 生徒の反応（授業後の感想）

文化祭の練習の過程で勇次と同じような思いをしたので、勇次の気持ちがよく分かったと答えた者が多かった。

「他の人の考え方や行動に学んだ経験」については、「心のノート」に書いて自分を振り返る時間をとったことで、いろいろと思い浮かべることができたようである。

授業後の感想に「意見が合わないと腹が立ったりするけど、そのときにもう一步踏み出して話し合いができたらしいと思う。」「人から学ぶことによって、自分にプラスになるものがある。」「人の行動をみて学ぶことは大切だ。」というものがあった。

5 実践者からの一言

生徒たちは実際に和太鼓の演奏をしていくだけに、状況把握や登場人物の心情をつかむことが容易だったようである。和太鼓ではわかりにくいときは、他のものに置き換えてよいだろう。

授業後の感想からも、「他に学ぶことによって自己が高まる」ということは理解できたようであるが、これが4-(1)の「集団生活の向上」に流れないように気をつけなければならない。

（山野中学校 杉野真由美）